

令和6年度病害虫発生予察指導情報
対象病害虫：ハスモンヨトウ（ダイズ・野菜）No. 1

令和6年9月5日
鳥取県病害虫防除所

1 発生状況

(1) ダイズ

ア 6月～8月第5半旬までのフェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は平年並～やや多く推移していたが、8月第6半旬現在の誘殺数は、両地点とも急増している（図1-1、図1-2）。

イ ダイズほ場においては、本種による白変葉の発生がみられており、今後、食害被害が増加すると予想される。

【鳥取市橋本】

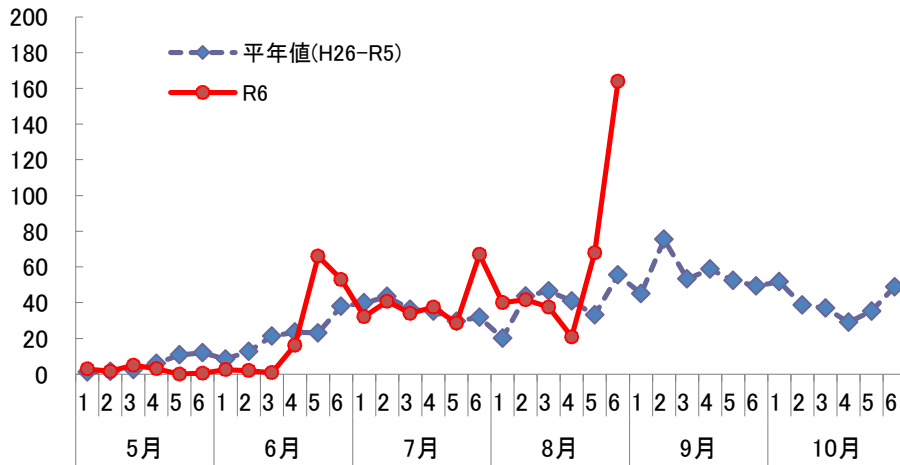


図1-1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：鳥取市橋本）

【湯梨浜町長瀬】

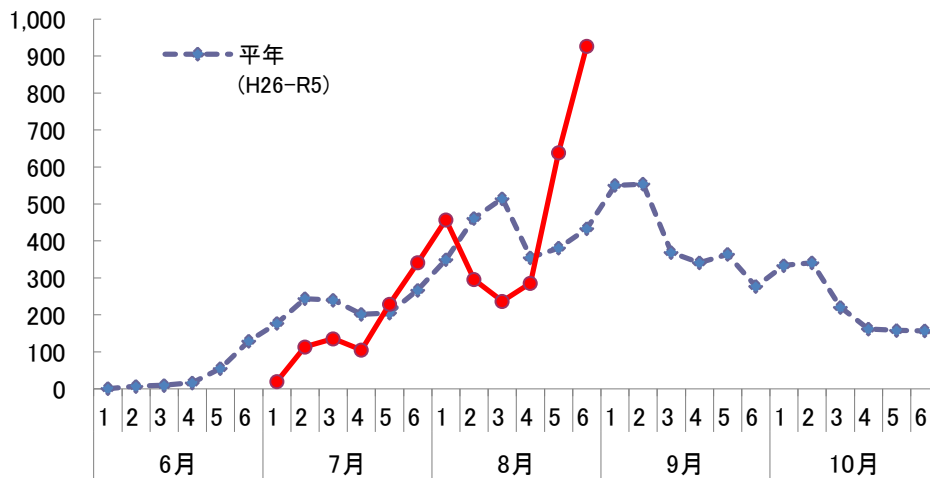


図1-2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：湯梨浜町長瀬）

(2) 野菜

ア 8月第6半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は大山町で平年並、北栄町でやや多い。両地点とも増加傾向にあり、今後、次世代による食害被害が増加すると予想される（図2-1、図2-2）。

イ 8月21日現在の県中西部のブロッコリーほ場において、ハスモンヨトウの卵塊及び若齢幼虫が確認されている。

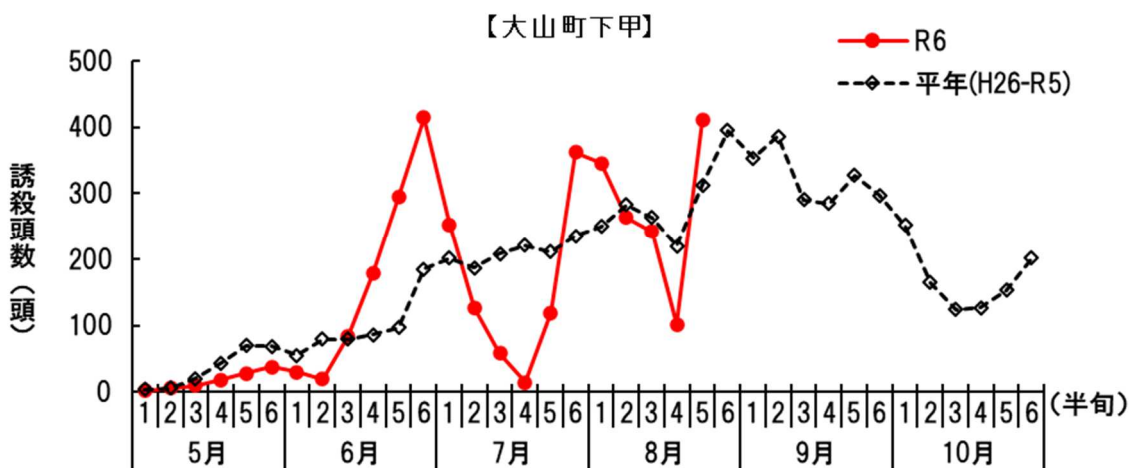


図2-1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：大山町下甲）

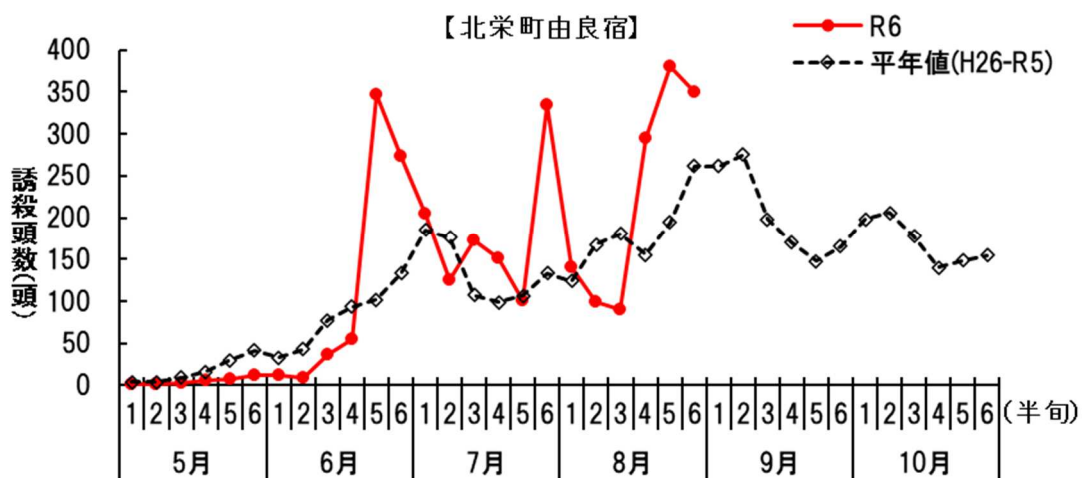


図2-2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数（調査地点：北栄町由良宿）

2 防除上注意すべき事項

(1) ダイズ

ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努める。

イ 白変葉の発生は、地域間差、ほ場間差が大きい。観察にあたっては、ほ場周辺からの観察のみならず、ほ場内での観察も行う。

イ 防除の目安は、1 a 当たりの白変か所数5か所以上とする。

ウ 若齢幼虫（体長1 cm 以下）に対する登録農薬の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が低下するため、散布適期を失しないようにする。なお、既に中齢～老齢幼虫が混在する場合は、ジアミド系殺虫剤を散布する。

(2) 野菜

- ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫（体長 1 cm 以下）のうちに防除を行う。食害痕がみられはじめる頃が防除適期である。
- イ 食害痕は不整形の白斑となり、さらにかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕が目立つ株に注意する。
- ウ 食害痕及び若齢幼虫の発生がみられた場合には、病害虫防除指針などを参照し、薬剤防除を行う。